

01年度の有害物質90万トン 3分の1が発がん性

環境省などは20日、有害な化学物質の排出量を事業所が届け出る化学物質排出管理法（PRT法）に基づく全国集計結果を初めて公表、**2001年度の1年間に大気や河川など環境中に有害物質約90万トンが排出された**と推計され、そのうち**約31万トンが発がん性物質**だと分かった。

このデータからだけでは**健康への影響は分からないが、排出実態がガラス張り**になることで、削減の取り組みが強化されると期待されている。

同省などでは、個別の事業所のデータ開示の受け付けも始めた。

354種類の化学物質が対象。一定規模以上の工場やガソリンスタンドなど45業種、約3万5000事業所が届け出た。環境中への排出量と、廃棄物として出したり下水道に流した移動量とを分け、対象業種以外などの排出量も推計した。（共同通信）

[3月20日16時10分更新]

人工甘味料で精子障害 マウス実験、微量で発生

清涼飲料水などに広く使われている人工甘味料「**アスパルテーム**」と、かんきつ類の防かび剤「**オルトフェニルフェノール（OPP）**」が、いずれも動物に影響がないとされているレベルの1000分の1の量でマウスの**精子に障害**を起こしたとの実験結果を、京都府立大の北条康司助教授（食環境安全性学）が27日、長崎市で開かれた日本薬学会で発表した。

最近指摘されているヒトの精子数減少との関係が議論になりそうだ。

実験は、成熟した雄のマウスに1週間連続でアスパルテームとOPPをそれぞれ経口投与し、8日目に精子を調べた。

マウスを4匹ずつ4つのグループに分け、うち3グループにはアスパルテームをそれぞれ体重1キロ当たり1ミリグラム、10ミリグラム、100ミリグラムずつ毎日1回投与。水だけを与えたグループと比較した。

すると、形が正常で直進する精子の率は、水だけのマウスが**平均約25%**だったのに対し、投与した3グループはいずれも**平均16%前後**と、明らかに低かった。（共同通信）

[3月27日17時45分更新]